

COOP

京都の生協

2002 August NO. 46

発行●京都府生活協同組合連合会

〒604-0851 京都市中京区烏丸夷川東南角 せいきょう会館2F

TEL.075-251-1551 FAX.075-251-1555

ホームページURL : <http://ha2.seikyoren.ne.jp/home/Kyotofu.Seikyoren/>

メールアドレス : Kyotofu.Seikyoren@ma2.seikyoren.ne.jp

CONTENTS

ネットワークNOW	2
●華道家元池坊 次期家元 池坊由紀さん	
●京都府生活協同組合連合会副会長 (京都生協理事長) 小林智子さん	
◆「食の安全」をすすめる学習と国会議員・各党要請のつどい開く	8
◆国際協同組合デー第13回京都集会	10
◆組合員とともに	
立命館生協一組合員の「声」を実現する	12
乙訓医療生協一健康チェック、夢マップづくり	13
TOPICS	14
●京都府商工部・京都府生協連定期懇談会	
●府生協連三役が山田新知事へごあいさつ	
●京都府農林水産部・京都府生協連食の安全推進委員会との意見交換会	
●安全な食品を確保するための意見交換会	
●近畿米粉食品普及推進協議会が設立	
●ピースリレー2002京都一平和行進	
●浦島エコローの森づくり	
●京都府生協連第49回総会開かれる	
◆探訪	16
◆お知らせ	

ネットワーク・ナウ 対談 Network Now

華道家元池坊 次期家元
京都府生活協同組合連合会副会長
(京都生協理事長)

小林智子さん

池坊由紀さん



「食の安全」をすすめる学習と国会議員・各党要請のつどい



国際協同組合デー第13回京都集会

京都府生活協同組合連合会副会長（京都生協理事長）

こばやし ともこ
小林智子 さん



豊かな自然環境、多様な命との連帯
時代が変わり、暮らしの風景が変わっても、
ずっと大切にしたい

華道家元池坊次期家元

いけのぼう ゆき
池坊由紀 さん

ネットワーク・ナウ Network! 対談 Now

21世紀に
はばたく
京都の生協

池坊次期家元・池坊由紀さんはその自著『花の季（とき）』のなかで、「物言わぬ植物の、懸命にその環境の中で生き延びていこうとする底力のようなものを感じる」と書きのべている。嵐の後、か細い体を空に向かって起こすコスモス、街路のわずかな土に咲くたんぽぽ。「花をいける」とは、懸命に生きる「命」と向き合い、慈しむこと。その視点、どこか生協の願いと通底している。

変わっていくけど 変わらないこと

小林 はじめまして。もう一〇年ぐらい前になりますか、若い女性が池坊の次期家元に決まったというニュースを耳にして、同じ京都に住む女性として、たいへん驚きましたし、とてもうれしく思ったのをおぼえています。きょうは由紀さんとお会いできるのをとても楽しみにまいました。



池坊 ありがとうございます。最初に少し自己紹介をいたしますと、私は次期家元であり、また一主婦、一母親です（笑）。日本人として京都に生まれ、いけばなという最も日本的な伝統文化のなかで生きていけることを、私はとても幸せだと思っています。西洋化した暮らしの

なかで、日本の文化が忘れられがちな時に次期家元になったということは、日本をとことん見つめ直す役目を与えられたわけですから、やりがいの大きな立場だと思います。

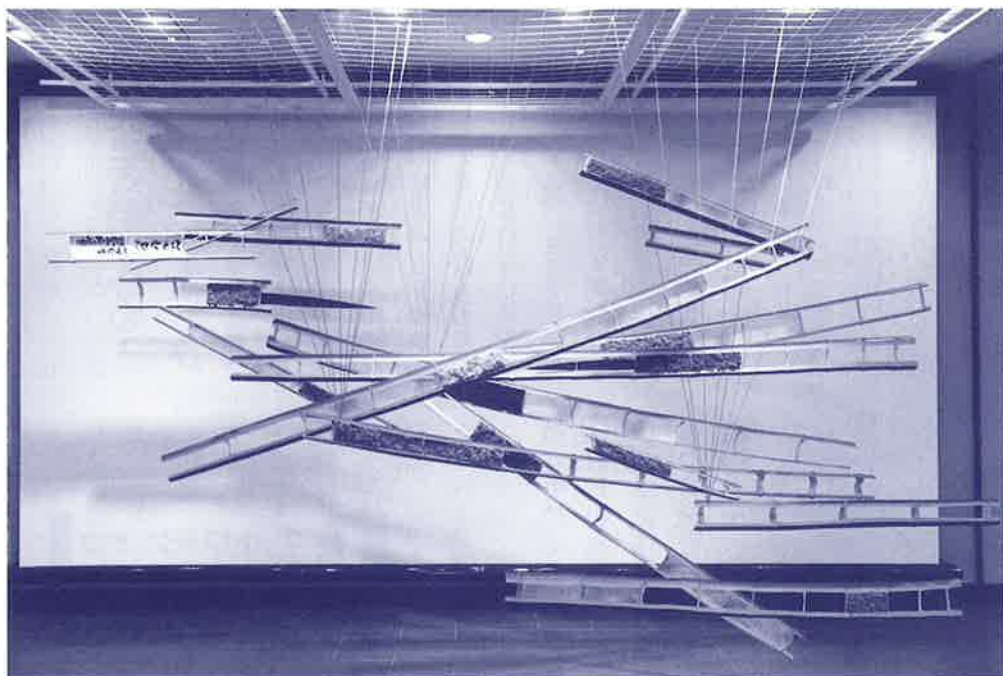
変わらない思い

小林 京都生活協同組合は創立三八年で、池坊の歴史に比べると生まれたばかりのようですが、数百人の組合員から始まり、いまでは四七万人の組織にまで成長しました。その間、暮らし方は大きく変化しましたが、創立当初の、お互いに助け合い、支えあうという精神は変わらず

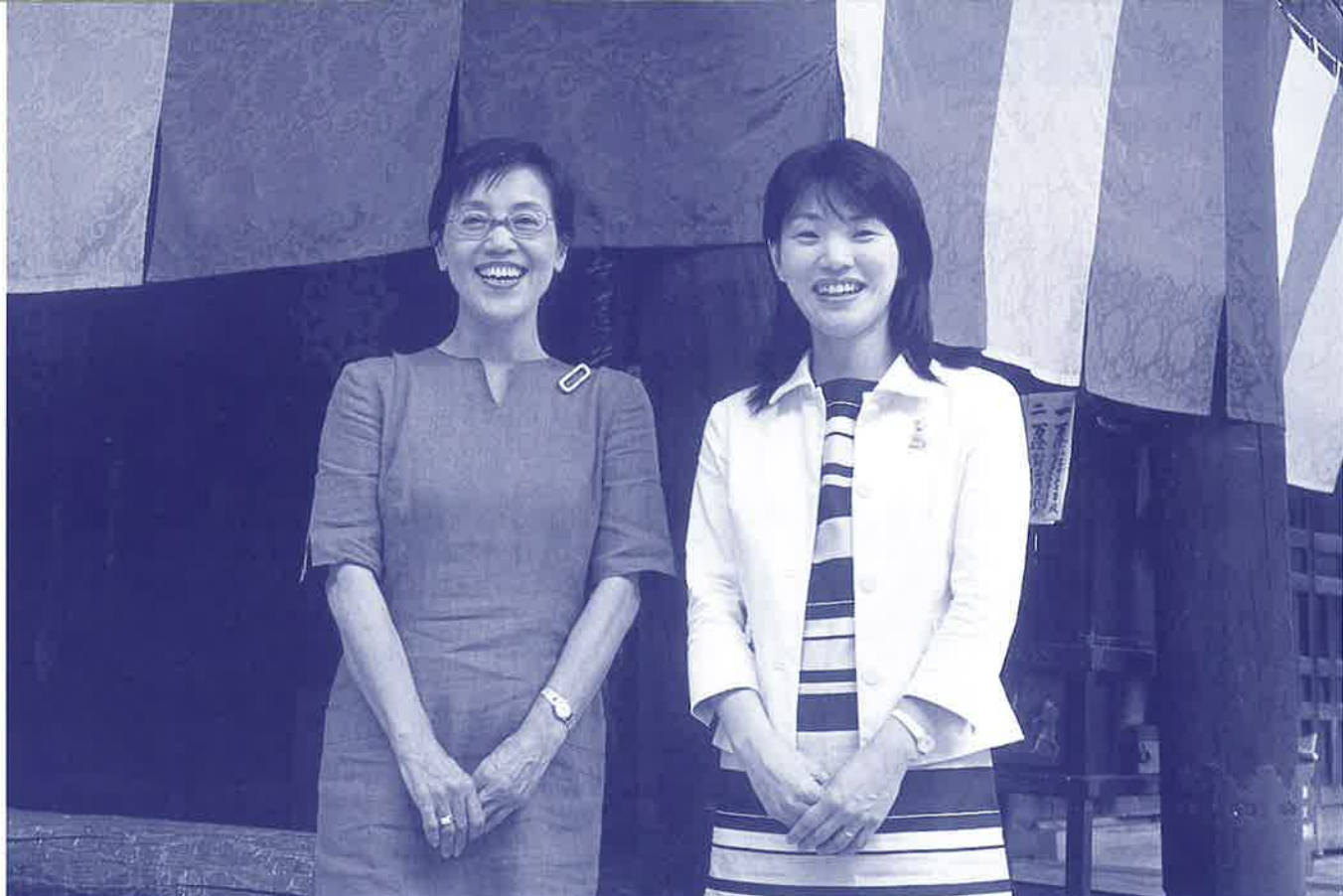


に大切にしたいと思っています。

池坊 それはいけばなの世界にもいえることですね。華道も、花材やライフスタイルの変化に適応しながら、花を私たちと同じように生きている命としてとらえ、慈しみ、自分の心を花に託して表現しようとする思いは変わりません。だからこそ、いつの世も人びとの心を打つのだと思います。時代に応じて変わらなければならない部分と、時代が変わっても譲れない精神と、きつと、その両方が必要なのでしょね。



池坊学園祇園祭協賛花展「花きらきら」においての作品（次期家元：池坊由紀）



たべる大切—— 食生活の真の豊かさを考える

小林 由紀さんはエッセイ集『秘すれば花』のなかで、「暮らしの快適さは、四季をなくしてしまった」とお書きになっていますね。

池坊 コスモスも桔梗も、昔は自然の風を受け、太陽に向かって咲こうとして、適度な婉曲を持ち、生きているものの姿勢をあらわしていました。でも、いまは大量栽培・大量輸送・大量販売ですから、輸送しやすい画一的な形の、味気ない花材が多くなっています。花を愛で、命を慈しむことと、経済を共存させていくことの難しさを感じます。

小林 野菜も画一的な味や形になりました。生協では産直トマトを扱っていますが、やはり本来の時期に出荷されたトマトは、「昔のトマトの味がする」と評判です。

池坊 トマトはもととアンデス高地が原産地ですから、雨の少ない地域でたくましく育つことで、栄養を凝縮させるんです。

すね。もちろん、昔は年中食べられる野菜ではありませんでした。でも、いまの消費者はすべての野菜が年中そろうことが幸せなのだと思いますね。お弁当をつくっていると、ついつい彩りよくいろいろなものを詰めようとして、私自身つくづくわがままでと思います（笑）。それが自然なことなのかどうか、もう一度問い直して、旬のおいしさを味わいたいと思います。

それに昔は、身近に作物がつかられ、食べ物のできる過程が一般の人の目に見えていました。現代人は忙しく、食材もほとんど外で調達し、過程が見えなくなっています。

食べ物ができる 過程を知る

小林 生産者が近くにいて、消費者もその姿を知っていることが大切ですね。京都の生協はJAや漁協など生産者のみなさんと協同して、府内でとれたものを

府内で食べる「府内産直」に取り組んできました。

たとえば京都生協の「かもめBOX」は、舞鶴港をはじめ、府内を中心に水揚げされた魚が、翌日の共同購入で組合員に届くシステムです。海から遠い京都市でも新鮮なお魚を食べたいという声で始まったのですが、京都の人は年配の方でも魚をさばけない人が多い。そこで舞鶴で漁業の現場を見せてもらった後、漁協の女性を講師に包丁教室を開いて、さばき方を教えてもらいました。実は私もその修了生で、ちゃんとさばけるようになりました（笑）。

池坊 食べ方のノウハウを教えていただけるのはありがたい

ネットワーク・ナウ
Network!
対談 **Now**



ですね（笑）。野菜にしても、あく抜きが必要だったりして、食べようと思うとけっこう手がかかりますから。それに、生産者の方との交流も大切だと思います。食べ物ができる過程を知らない、人間は自分の都合だけで考えて、お金さえ払えば何でも手に入ると思いがちです。その過程を子どもたちにも見せたいですね。

食品の安全と食生活の豊かさ

小林 じつは生協では、お正月のしめ縄も産直なんです。組合員は子どもたちを連れて農家へ行き、田植えや稲刈りのお手伝いをして、わらはしめ縄にしてもいい、お米とともに共同購入で扱い、最後はどんど焼きを生産者の方と一緒に楽しめます。年間を通じて生産の現場を応援すること、組合員も子どもたちも物心ともに豊かな恵みを与えられていると思いますね。

でも、このところの食品偽装表示問題では生協も表示と違ったものを提供し、信頼を裏切ることになってしまいました。生

協自身の問題点をきちんと解明するのはもちろんですが、この問題は食品の安全にかかわる社会のシステムそのものを正さない限り解決しません。

生協は、雪印の食中毒事件の前から、食品衛生法を真に消費者と生産者に顔を向けた法律に改正するための運動を展開し、他の分野のみなさんのご協力もいただいて、京都府で約四六万、全国で約一四〇〇万の署名を集めました。その後、BSE（牛海綿状脳症）や偽装表示問題が起こり、食の安全確保のための社会システムづくりは世の中の流れになってきたと思います。

池坊 消費者と向き合うシステムづくりは私も必要だと思いますし、それを促進するためには一人ひとりが高い意識を持って日常の行動のなかで考えていかなければと思います。料亭のお料理も大切ですが、家庭で毎日食べるものが充実しているところこそ食生活の豊かさであり、高価ではなく、ふつうに売られ食べられるものだからこそ、安全で信頼できるものであってほしいですね。

環境問題——地球規模で考え、行動は足元から

池坊 いけばなは、限りある植物を一度切って、異なった表現でその命を生かす芸術ですから、いかに少ない花で多くのことを表現するかに心をくだいてきました。人間と自然の距離が近く、自然のなかに抱かれ、四季折々変わる山並みや植物をながめていたからこそ、人はものいわぬ一本の草花が訴えるものを感じとり、それによって自分の命も他者の命も慈しんでいたのではないかと思います。

でも、現代人はお金で多くのことを解決してきたために、自然との向き合い方や暮らし方が

雑になってはいないでしょうか。人間は、地球上のたくさんの動植物の一員にすぎませんし、命は連鎖していて、土や水が汚れたら次の世代は生きていくことができないと思います。そういう視点から、日常の一つひとつの行動をよく考えて、たとえば環境負荷の少ない製品を買ったり、トレーの回収に協力したりすることが大切だと思いますね。

小林 ほんとうに、このままいくと安全な食料をつくりつづけられるのだろうかと思えます。しかも、日本ではモノがあ





ネットワーク・ナウ Network! 対談 Now

助け合い、支え合う——協同の 心で、生き生き暮らせる社会を

ふれているのに、途上国には飢えた人びとがいて、その格差はとても大きい。私たちが便利さを享受している背景には途上国の資源をたくさん使っている問題があるわけですから、由紀さんがおっしゃったように、地球規模で考えて、行動は日常の生活のレベルで取り組むことが大切だと思います。

生協も、いまほど環境対策が進んでいなかった十数年前から、できることから始めようと、牛乳パックの回収に取り組みました。買い物袋の有料制は、始

めるときは「組合員さんの利用が減るのではないか」と議論百出でしたが、現在はほぼ定着し、購入された分のお金は資源再生商品の開発や生産に充てられています。

また、残った食材を利用した循環型農業も、酪農家のみならずと一緒に取り組みがはじまりました。

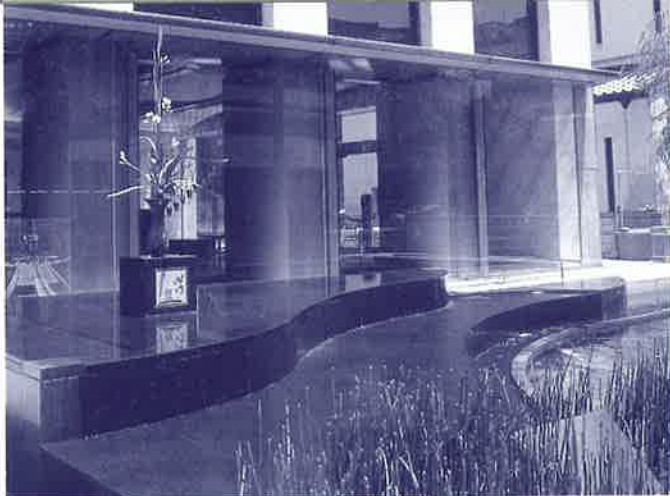
いずれにせよ、一人ひとりが環境問題に参加できる仕組みづくりが大切で、それによって持続可能な社会の構築を促していきたいと思っています。

小林 自分子どもと同じように、世界中の子どもたちも幸せになつてほしい。そんな願いから、京都生協はユニセフ募金

に取り組んでいます。私たちの募金が何に使われ、現地の人びとの暮らしがどう変化したかわかるように、支援先をラオスに指定し、一過性のお金だけではなく、特に女性の自立に役立つ職業教育の支援などに取り組んでいます。

池坊 女性や子どもたちに、自分で生きていく術を教え、自立をサポートしていくことはとても大切だと思います。でも、マグマの塊みたいなエネルギーをそぎ落とされた日本の子どもたちも、とても気になりますね。

小林 ユニセフ親善大使の黒柳徹子さんがおっしゃるには、途上国の子どもたちはとても貧しいけれど、その目は輝いているそうです。日本の子どもは、



食べ物もファミコンもあるけれど、勉強に追い立てられて、はたして幸せなのかしら？ その意味では、ラオスの女性や子どもたちから逆に私たちが教わることも大きいですね。

生協は心強い 生活応援団

池坊 援助活動は、単に相手に与えるだけではなく、援助する側が与えられるものも大きいのです。ところで、生協はヘルパー事業もなさっているのか。

小林 現在はヘルパー事業もおこなっていますが、それと並行して約一五年前から「くらしの助け合いの会」という家事援助の有償ボランティア活動に取

り組んでいます。この会のサービズを利用なさる方の中心は高齢者ですが、最近では、意外に子育て中の若いお母さんも多くて、子育てを社会全体で支える態勢の不十分さを実感します。

子育て環境の整備は男女共同参画社会の前提ですから、生協は助け合いの活動を続けながら、同時にこの面でも努力しなければと思っています。

池坊 じつは東京に住む私の義母も生協のボランティアに登録しているのですが、この二年間、依頼がなくて残念がついてます（笑）。それはともかく、私もふくめて子育て中のお母さんは、子どもという自分のエネルギーを傾ける存在がいることじたいは幸せなのですが、相談

相手もなく、時間に追い立てられて、その幸せを実感しにくいのだと思います。ぜひ、安心して産み育てられるシステムが整うといいですね。

きょうは、食に限らず多岐にわたって活動なさっている生協のお話をうかがって、心強い生活応援団だなと思いました。これから常に関心者と生産者に真摯なまなざしを向けて、活動をつづけていただきたいと思います。

小林 ありがとうございます。女性も男性も、若者も高齢者も障害者も、誰もが参加できる生協へと自己変革し、協同の力で暮らしやすい社会にしていきたいと思っています。今後ともよろしく願います。



華道家元池坊 次期家元

池坊 由紀さん



京都府生活協同組合連合会副会長／京都生協理事長

小林 智子さん

第3回世界水フォーラム

2003年3月16日(日)～23日(8日間)で開かれます。

メイン会場である京都に加え、滋賀、大阪で特別セッションや分科会が開催され、滋賀デーと大阪デーが設けられ、それぞれの地域に関連のある様々なプログラムが実施されます。

1. 各生協で、学習や参加の議論を進めます。

京都府生協連では、それらをコーディネート、支援する立場から、「京都府生協連世界水フォーラム参加のための協議・交流会合」(仮称)をもちます。

2. NPO組織などの「情報」を伝えますー学習会、シンポジウム企画など。

3. 京都府生協連の取り組み①滋賀県、大阪の生協と一緒に「生協実行委員会」を設け、協同で企画を具体化します。

②秋の生協大会の企画とリンクさせ、京都府生協連としての企画を取り組めます。

4. 「世界水フォーラム市民ネットワーク」と協力、協同した取り組みを進めます。

「食の安全」をすすめる学習と

国会議員・各党要請のつどい開く

6月8日、京都テルサにて、京都府生協連の主催による「食の安全」をすすめる学習と国会議員・各党要請のつどいが150名の参加で開かれました。食品安全にかん

する新法・新組織が設置される動きが急速につよまっている情勢のもとで、消費者の声をしっかり国政に反映させていこうという趣旨で開催されたものです。

員・各党要請の

2002年6月8日 主催：



J A 京都中央会地域振興対策部課長・野々口康史氏、日生協関西地連・高木誠司氏が来賓参加、吉田智道京都府生協連会長理事が開会のあいさつをのべました。

学習講演には、前全国消費者団体連絡会事務局長の日和佐信子さんが「新しい食品安全行政のあり方」と題して、BSE問題などをつうじての食品安全行政の現状をリアルに報告、このごあり方を提起しました。

つづいて、尾松京都府生協連事務局長より、京都の生協の食品安全にかんする2年間の取り



自由党衆議院議員
中塚 一 宏氏



日本共産党参議院議員
西山 とき子氏



民主党衆議院議員
山井 和 則氏



自由民主党衆議院議員
奥山 茂 彦氏



組みを報告、ご参加いただいた国会議員を紹介しました。

出席いただいた方は、

◇自由民主党衆議院議員

奥山茂彦氏

◇民主党衆議院議員

山井和則氏

◇日本共産党参議院議員

西山とき子氏

◇公明党

(メッセージ参加・山名靖英氏)

◇自由党衆議院議員

中塚一宏氏

参議院議員松井孝治氏、参議院議員福山哲郎氏からも、メッセージをいただきました。

各議員からは、国会の動きと各党の方針を報告いただきました。報告にたいしては、会場から、現場の状況や怒り、表示間

題などをふくめて発言があり、各議員からコメントをいただきました。

つづいて、小峰府生協連専務

より、「食品の安全を確保する

ための新行政組織と法律に関する要請」内容を説明し、各議員

へ要請書を吉田府生協連会長、

京都生協・門脇専務理事、金澤

理事、高畑理事が手渡しました。

また、七夕に願いを込め、組合

員手書きによる「ねがいカード」

が各議員にわたされました。

最後に、大学生協京・滋・奈

良地域センター沼沢副会長、京

都生協高田理事より組合員の食

の安全へのあつい願いがのべら

れ、国会での具体化を強く要望

しました。

武部農林大臣タウンミーティング、生協の要望伝える

6月29日、国際会議場で武部農林水産大臣が出席して「『食』と『農』を語り合う」タウンミーティングが開かれ、近畿2府4県から500名が参加しました。「食と農の再生プラン」

を中心に、BSE問題、食の安全対策、農業の再生課題などについて意見交換がおこなわれました。会場発言として京都府生協連尾松事務局長が、法改正・新行

政組織の設置にむけての「5つの要求」と地方行政の役割について提起しました。



食品の安全を確保するための新行政組織と法律に関する京都の生協からの要請項目

1. 新行政組織の独立性・透明性を確保し、他省庁への勧告権等を付与すること
2. 「リスク評価」機能を新行政組織に集中し強化すること
3. 関係行政機関が行うリスク管理への監視機能を付与すること
4. リスクコミュニケーション機能を確立すること
5. 各種表示制度を二元的・抜本的に見直すこと
6. トレーサビリティのあり方について検討を早急に進めること
7. 食品の安全性確保のための基本原則を確保した新法を制定すること
8. 食品衛生法の抜本改正を行うこと

参加者からは「講師（日和佐 国会議員の出席にくわえ、メッセ子さん）の臨場感のある報告 セージ参加があり、世論形成ので出席者の関心にこたえるもの うえでも広範なものとなった」となった「各党から、4名の などの感想がよせられました。

国際協同組合デー第13回京都集会

国際協同組合デー第13回京都集会は7月3日、「地産地消運動とつくる大切、とる大切、たべる大切」をテーマに、京都府立中丹勤労者福祉会館で開催されました。主

催は、京都府協同組合連絡協議会（JA京都中央会、京都府漁連、京都府森連、京都府生協連）。参加者は170名と過去最高となりました。

全体会（13時～16時）

開会にあたり、JA京都中央会専務理事の小瀧茂さんからあいさつがあり、「昨年来のBSE問題、表示問題など、JAなど協同組合の信頼が揺らいでいる。本集会をセレモニーにせず、協同組合の意義をほりさげ、再

確認し、さらなる協同組合の協同の力で前進につなげる場にしよう」とのべました。

農林水産省近畿農政局黒木幾雄局長からの祝電が披露されました。

講演と話題提供

講師に地産地消ネットワークみえ代表・石田正昭氏（三重大学生物資源学部教授）を迎え、「生産者と消費の良い関係づくりー地産地消ネットワークみえの取組み」についてお話しをいただきました。

講演要旨は、以下のとおり。

地産地消ネットワークみえは、①使命（ミッション）が生産者と消費者の地域での共生、②目的（ビジョン）が資源・環境問題、食品の安全性問題への積極的関与となっている。

その特徴として、①民間のネットワーク、②実際に活動している人たち（運動家）の結集、



石田正昭さん



小瀧 茂さん

③自主的活動に対する積極的な支援である。

地産地消ネットワークみえの課題として、①県産品の自給率向上（旬を食べよう）、②顔と顔の見える流通による安心システムの構築、③生産履歴の情報開示による安全システムの構築をめざしている。

つづいておこなわれたパネルディスカッションでは、コーディネーターに京都府立大学大学院農学研究科助手・中村貴子さんを迎え、各協同組合から特徴的な活動報告と討論がおこなわれました。

京都生活協同組合常任理事・高田艶子さんは、「食の安全を求める社会的システムや法改正の運動」の紹介と、綾部小畑地区との顔の見える取組みの事例を紹介しました。

J A京都中央会地域振興対策部長・牧克昌さんは、農産物価格の安定が生産者の「安定」をもたらすこと、近年さらに安全なものが求められていることなどを指摘し、京都府生協連、JAらによる「京都府生産消費推進連絡協議会」の活動の意義を

のべました。

美山町森林組合代表理事常務・中西昭雄さんは、「美山町における地域活性化と森林・林業」の取組みとして、木材加工センターの活動を報告しました。

野原漁業協同組合の武田康司さんは、「野原ファン獲得計画——サザエ採捕事業への取り組み」を報告。

討論では、地産地消をどのようににすめ、食料自給率をどう高めるか、そのためには何が必要で何が課題か、農産物・国産材などの価格問題をどう考えるか等、活発な討論がおこなわれました。

最後に閉会のあいさつを京都府漁業協同組合連合会代表理事会長・上田功さんがおこない、閉会しました。



上田 功さん

女性交流会（午前の部）

「くらし・食・人・いきいき」

協同組合の元氣をつくる女性たち」をテーマに

女性交流会は4連から94名が参加、「くらし・食・人・いきいき——協同組合の元氣をつくる女性たち」をテーマに開かれました。

司会を藤井久美（京都府森林組合連合会主事）さんが、

開会のあいさつを京都生活協同組合理事長・京都府生協連副会長の小林智子さんがおこないました。



くらし



「元氣が出る」活動の報告として、①「地域でイキイキとくらし」をテーマに舞鶴市林業女性グループ山ゆり会・野田洋子さんが、②「京都府漁婦連の活動」をテーマに京都府漁業協同組合婦人部連合協議会・和田智恵子さんが、③「小さな山里の大きな夢づくり」をテーマにJ A京都市女性部大西孝子さんが、④「府内でとれたものを府内で消費する大切」をテーマに、京都生活協同組合理事・竹原由海子さんが、報告されました。

最後に、まとめと閉会のあ

いさつを京都府漁業協同組合婦人部連合協議会委員長・和田智恵子さん、J A京都女性組織協議会会長・大村律子さんがおこない、閉会しました。

産地見学会（午前の部）

京野菜の産地（綾部市賀茂なす産地）見学会は、18名が参加し、圃場の見学とともに生産者との交流をおこないました。



組合員とともに

立命館生協

組合員の「声」を実現する

立命館生協では、学生と職員がいつしよになって、組合員の困っていることや要望を解決したり、実現したりする「場づくり」をおこなってきました。

焼きたてのパンの事例を紹介します。ひとりの学生から「大学のなかでも焼きたてのパンが食べたい」という声があがり、それが生協で実現しました。そして、焼きたてパンの好きな学生が集まって「焼きたてパンファンクラブ」がつくられました。京都にはいろいろなパン屋があるので、「パン屋ツアー」を企画したりして、視察や試食をおこない、自分たちの食べたいパンづくりにつなげています。また、新学期に「これは学生の声で実現したパンだよ」ということを説明しながら、一人ひとりの新入生に手渡し、このことを広めています。



新入生に「大学で何かしたい。そういう思いを実現する場として生協委員会をもうけている」と説明し、現在、約200人が環境・旅行・京都などのテーマに分かれて、自分のやりたいことを実現するために活動をおこなっています。このような活動をとおして、「生協の食堂や店舗が身近に感じる」という学生もふえました。

2002年度の立命館生協のテーマに「組合員のほしい商品とか、食べたいメニューとか、お店で実現できる取り組みを全力で応援します」というのがあ

りますが、学生が職員といっしょに話し合いながら、食堂を変えていくという取り組みは、たんに「食べたいメニューが食べられてうれしい」ということをこえて、その人の大学生活をいきいきしたものに变える可能性を生協がもっているということなのだと思えます。



一人ひとりが持っている「思い」を、その人といっしょになつて、生協がサポートしながら、実現させていく、このことでみんなが元気になって、そんな元気な人いっぱいになった大学になったらいなと思っています。



(末藤 潤子)

京都生協店舗でポイントカード導入

京都生協では、店舗を利用する際には組合員カードのレジ提示を義務化しており、この間、利用高割戻しがないなかで、組合員から利用に対するメリット・「ポイントカード」への要望が強く出されてきました。

それにこたえて、ポイントカードを導入し、店舗での「利用高還元」を実施することになりました。7月19日より全店で本格実施となりました。

内容は、お買い上げ金額200円(税込)ごとに1ポイントとし、一定のポイント数(500ポイント)が貯まるとレジでお知らせし、サービスカウンターにて500円分のお買い物券と交換します。

「ポイントカード」の名称は公募の結果、「きょうとコープカード」となりました。



組合員とともに



乙訓医療生協——「健康チェ

ック、夢マップづくり etc.



医療生協ならではの健康を守る取組みとして、支部ごとに計画を立て、京都生協のむこうし、ながおか、らくさいのお店と連携して「健康チェック」活動をおこなってきました。組合員の家やガレージをかりての青空健康チェック、班会やサークル活動での健康チェックが年間をつうじて旺盛に開かれています。昨年度はのべ4383人が健康チェックをうけました。これは組合員数の92%にあたり、それだけ、みなさんが健康について考えている証拠だと思えます。

また、自分たちの住んでいる地域の状況を知り、安心して住みつけられるまちづくりをするために町並みマップづくりをはじめました。地域の道路や施設などの状況、子どもや障害者、高齢者が安心してくらし、いくのに緊急時に対応する行政の施策や公共施設がどうなっているか、自分たちで実際に歩いて地図に書き下ろす作業をしました。

できあがった地図をもとに、安心してくらししていくために欠けているものや、必要なものなどを組合員の議論のなかで確認しながら、地域要求づくりや自分たちの活動計画づくりをしています。この取り組みがこれからです。いろいろ夢があるので、「夢マップづくり」ともいってまいります。



そして、自主的な健康づくりが活発におこなわれるようになりました。プールでの水中ウォーキングサークル、観光サークル、ヨガサークル、踊りサークルがあります。一時的なブームというのではなく、無理せず、定期的に活動をつづけています。

私たちは、無理をせずというのですけれど、なかなか元気なお年寄りが多く、口も達者、からだも達者。見ていて、すごく元気で、私なんか、後からヨロヨロついていっている状態です。

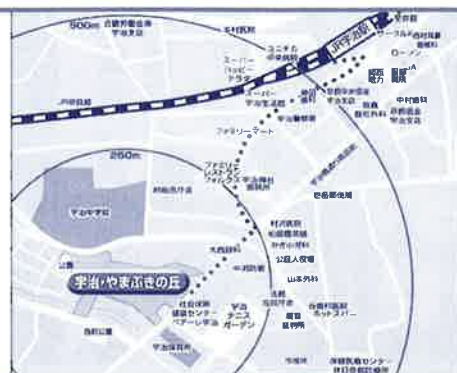
(村尾八代生)

宇治やまぶきの丘

安心・安全・快適な住まい 日本勤労者住宅協会がお届けしています。

業務取扱
KYOTO 住宅生協
京都労働者住宅生活同組合 (略称=京都住宅生協)
京都府知事免許(11)第671号
京都府宅地建物取引業協会会員
〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地2(四条御前西入) ラボール京都8階
☎075-801-5121 e-mail: jyu-taku@labor.or.jp

お問い合わせは
京都住宅生協
☎075-801-5121





京都府商工部・京都府生協連定期懇談会が開催されました

7月30日、京都府商工部・京都府生協連定期懇談会が京都府庁内会議室で開催されました。京都府より、商工部奥原部長、消費生活課八島課長、井上主幹、

池田課長補佐、伊藤専門員、金子主事のご参加をいただきました。

生協からは、吉田府生協連会長理事、京都生協小林理事（府生協連副会長）など、9名の役職員が参加しました。

各生協から、2002年度課題、事業内容について報告し、ご理解をいただきました。京都府生協連からは、府行政への「提案」をおこない、意見交換・懇談しました。

京都府行政施策への「提案」事項

1. 食の安全施策について
2. 農業・漁業・林業の振興と産品の普及・拡大、都市と農村の交流施策について
3. 災害対策について
4. 生協の育成・強化について
5. 消費者行政、環境施策について
6. 福祉施策について、男女共同参画について

府生協連三役が

山田新知事へごあいさつ

「食の安全」・府内産品の消費拡大へむけて懇談

5月7日、府生協連・吉田智道会長理事、末川千穂子副会長理事（当時）、小峰耕二専務理事、尾松事務局長、坂本次長が、新しく就任された山田啓二京都府新知事にごあいさつにうかがいました。消費生活課課長・八島一美氏にご同席いただきました。

山田新知事からは、生協の個別配達や店舗、食品衛生にかんする行政状況、府内の産業振興、とくに地域産品の消費拡大についてなど幅広い発言と生協への期待の声が寄せられました。

京都府農林水産部・京都府生協連食の安全推進委員会との意見交換会を開催

5月28日、京都府庁旧館にて、「食の安全」をテーマに、京都府農林水産部と京都府生協連食の安全推進委員会との意見交換会が開催されました。

各団体・協議会より委員の囑託要請がありました

◇ユニセフ協力委員会委員

吉田智道（生協連会長理事）

小林智子（京都生協理事）

◇京都府 京のブランド野菜

倍増検討委員

小林智子（京都生協理事）

・生協連副会長理事

◇京都府 京のふるさと交流

推進協議会委員

◇京都府中山間地域等直接支

払制度委員

吉田智道（生協連会長理事）

◇近畿米粉食品普及推進協議

会理事

尾松数憲（生協連事務局長）

近畿府県連協議会・農

林水産省近畿農政局

「国民の食の安全を確保するための意見交換会」開かれる

近畿米粉食品普及推進協議会が設立

5月10日、近畿府県連協議会・日本生協連関西地連の主催で、農林水産省近畿農政局との「安全な食品を確保するための意見交換会」が、大阪コナホ

テルにて開催されました。

BSE問題・食品の表示偽装問題・食品の安全にかかわる新行政組織・農水省の「食と農の再生プラン」等について参加者から活発に意見が出されました。



近畿米粉食品普及推進協議会が設立

6月18日、大阪合同庁舎で300名が参加し、近畿米粉食品普及推進協議会の発起人会と設立総会が開かれました。規約、活動方針、予算が決定され、会長には料理研究家の坂本廣子氏

が就任、尾松事務局長が理事に
選出されました。



ピースリレー2002 京都—平和行進

多彩な取り組み、広がる平
和への願い

5月7日、東京夢の島を出発
して45日目、6月21日、ピース
リレー2002は京都に到着



し、多くの市民の皆さんの応援
をいただきながら、26日、奈良
県に引きつぎました。

今年は、平和への願いを語り
あい、平和な未来をつくるため
に、学習活動を柱に、はばひろ
い取組みを強めてきました。

浦島エコーの 森づくり



4月29日、京都府漁連主催

「浦島エコーの森づくり」が

伊根町太鼓山でおこなわれ、生
協から50名のボランティアが参
加しました。全体では250名
の府民が、735本の本（シバ
グリ、コナラ、オニクルミ、カ
エデ、山桜）を植樹しました。
府民代表で京都府生協連末川副
会長（当時）が記念植樹。これ
は5年間の継続行事で、200

3年も4月29日に開かれる予
定。

京都府生協連 第49回総会開かれる

京都府生協連第49回総会は、
6月4日、池坊学園において開
催され、すべての議案が賛成多
数で採択されました。

来賓の皆様より、ご祝辞をい
ただきました。



京都府商工部
部長
奥原恒興氏



京都労働者福祉
協議会会長
羽室 武氏

京都府議会議長、国会議員全
政党会派をはじめ、関係団体か
ら、71通の祝電・メッセージを
いただきました。

新しく、小林智子さん（京都
生協理事長）、木村世志雄さん
（全労済生協京都府本部専務理
事）、佐藤京子さん（やましろ
健康医療生協理事長）が理事に、
新堀悟史さん（乙訓医療生協理
事）、正田利政さん（同志社生
協常務理事）が監事に選出され
ました。

祝電・メッセージをいただいた方

（敬称略）

農林水産省 近畿農政局長 黒木 幾雄

内閣府大臣政務官 奥山 茂彦

自由民主党衆議院議員 菱田 嘉明

自由民主党衆議院議員 玉置 一弥

民主党衆議院議員 山井 和則

民主党衆議院議員 福山 哲郎

民主党参議院議員 松井 孝治

公明党衆議院議員 山名 靖英

文部科学大臣政務官 公明党衆議院議員 池坊 保子

自由党政調副会長 中塚 一宏

日本共産党衆議院議員 こくた恵二

日本共産党参議院議員 西山とさ子

日本共産党参議院議員 井上さとし

京都府議会議長 坪内 正一

京都市長 榎本 頼兼

京都商工会議所会頭 村田 純一

J A京都中央会会長 中川 泰宏

京都府漁業協同組合連合会代表理事会長 上田 功

きょうとさん京都支部長 栗津 浩一



2002年度 京都府生協連・新三役

会長理事

吉田 智道

副会長理事

小林 智子

専務理事

小峰 耕二

（事務局長）

尾松 数憲

事務局長次長

坂本 茂

（事務局）

坂本 茂

事務局次長

坂本 茂

事務局次長

坂本 茂

京都府生協連からの

お知らせ

「健康とたべるたいせつ」フォーラム



と き ● 11月12日(火) 13:00~15:30

ところ ● KBSホール 京都市上京区烏丸通上長者町
市営地下鉄丸太町駅・今出川駅下車
それぞれ徒歩7~8分

第1部 講演テーマ／

「たべることが好きだというのが、
たいせつね！」(仮題)

講師／ **小林 カツ代** (料理研究家)

【メッセージ】「生きるためには食べなくてはなりません。食べるためには食料が必要です。お金がどれほどあっても、お金を食べることはできません。何よりも大切にしなければいけないのは食であり、農であり、それらを育てていく人材です。」

第2部 パネルディスカッション

テーマ「**どうする食と農の再生!**」

農水省近畿農政局局長 黒木 幾雄氏ほか

第9回 京都府生協大会として開催します。

2002年度

京都府総合防災訓練

主 催…京都府防災会議ほか

日 時…9月7日(土) 7:00~11:30

発災対応型訓練…亀岡市ほか

主会場訓練…亀岡市内主会場

(保津橋左岸上流河川敷)

開会式…亀岡市内主会場

(保津橋左岸上流河川敷)

第33回京都消費者大会

主 催…京都消費者団体連絡協議会

日 時…2002年9月28日(土)

会 場…ハートピア京都

テーマ…京都消費者団体連絡協議会

設立30年記念行事

第14回KYOのあけぼの

フェスティバルワークショップ

主 催…KYOのあけぼのフェステ

イバル実行委員会

日 時…10月12日(土) 13:30~15:30

会 場…京都府民総合交流プラザ

(京都テルサ)

第2回勤労者

健康スポーツフェスティバル

主 催…京都労働者福祉協議会勤労

者健康フェスティバル実行

委員会

日 時…10月20日(日)

会 場…京都府立丹波自然運動公園

※問い合わせについては、京都府生協連まで

探訪

花咲く棚田の里

農事組合法人

越畑フレンドパーク

京都市右京区嵯峨越畑鍋湯109-1

TEL.0771-44-2700 FAX.0771-44-2701

越畑フレンドパーク まつばら

ぶどう 8月下旬~9月下旬

果実の品質及び味覚(糖度)をあげるには、昼と夜の温度差が必要です。昼暑くても、夜にはクーラーなしで快適に休める越畑の夏。この自然環境を生かして、マンズ・レインカット方式により、1997年から藤稔、甲斐乙女、高妻といった高級種を中心に栽培しています。

りんご 9月下旬~11月下旬

店頭販売をするだけでなく、越畑へ来ていただいたお客様に、紅葉した山々をながめながら、収穫する喜びを少しでも味わっていただけたらと考えています。



食事(越畑そば他)・喫茶・特産物販売

営業時間: 11:00~16:00

定休日: 火曜日

(祝日の場合は、翌週の月・水曜日が振替休日)